

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成 24 年 8 月 30 日 (2012.8.30)

【公表番号】特表 2011-528643 (P2011-528643A)

【公表日】平成 23 年 11 月 24 日 (2011.11.24)

【年通号数】公開・登録公報 2011-047

【出願番号】特願 2011-519205 (P2011-519205)

【国際特許分類】

B 6 2 K 5/04 (2006.01)

B 6 0 G 17/015 (2006.01)

B 6 0 G 1/02 (2006.01)

B 6 0 G 17/005 (2006.01)

【F I】

B 6 2 K 5/04 D

B 6 0 G 17/015 Z

B 6 0 G 1/02

B 6 0 G 17/005

【手続補正書】

【提出日】平成 24 年 7 月 9 日 (2012.7.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 9】

前記複動アクチュエータ (401) の 2 つのチャンバ (431、432) は、単一の弁 (457) を備えた単一のパイプ (455) により接続されていることを特徴とする、請求項 6 に記載の装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 17

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 17】

前記車両は三輪車であることを特徴とする、請求項 16 に記載の車両。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

図 2 (c) に示されるように、フレーム 200 の端部に取り付けられた取付け板 281 は、第 4 の孔部 324、第 5 の孔部 325、および第 6 の孔部 326 を有しており、それらは 1 つの円上において当該円の中心に対して 120 度の間隔をなすように配置されている。この円の直径は、取付けラグの 3 つの孔部 321、322、323 が配置されている円の直径と同一である。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 4 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 4 0 】

図 2 (b) に示すジョイント 3 0 0 は、略平行な 2 つの面を備えるゴムバネ部材である。中心部の開口はジョイント 3 0 0 の径方向の弾性を増すことに寄与している。ジョイント 3 0 0 は、第 1 の開口 3 3 1、第 2 の開口 3 3 2、第 3 の開口 3 3 3、第 4 の開口 3 3 4、第 5 の開口 3 3 5、および第 6 の開口 3 3 6 を有しており、これらは前記 2 つの面の各々において開口している。各開口の軸はこれらの面に直交している。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 9 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 9 2 】

2 つのアクチュエータの反対のチャンバ同士を接続すると、緩衝時にのみアクティブとなる 2 つのアクチュエータ VD、VG を接続する導管部分の作用によってポンピングを制御できる。結果としてサスペンション部材 SUS の緩衝機能を省略してバネのみで代えることが可能である。